

保健福祉企画総務課長 様

東区役所建設課長

岡山市くらしやすい福祉のまちづくり設計支援委員の
意見等について（報告）

下記施設整備事業について、平成26年 2月28日岡山市くらしやすい福祉のまちづくり設計支援委員（以下「委員」という。）に意見を聴いた結果を報告します。

記

<p>事業名 (整備概要)</p>	<p>主要地方道東岡山御津線道路改良事業 場所 岡山県岡山市東区宍甘から中区土田 内容 道路0.83km 地下道0.32km</p>	
<p>委員からの意見</p>	<p>委員の意見に対する回答</p>	
<p>1. 自転車歩行者分離 ○この周辺には学校もあり、完成の際には歩行者・自転車が增多すると思うが、自転車と歩行者の分離についてはどう考えているか？ ○平面部はともかく地下道部分については、かなりの勾配があり自転車のスピードもあがるため、歩行者等の安全性の確保ができるのか？ ○歩道部（地下道）については、視覚障害者・聴覚障害者・車椅子等様々な人が通る。コストや費用対効果だけでなく、障害者の気持ちに配慮した設計にして欲しい。</p>	<p>○現状の歩行者・自転車交通量が非常に少ないこと、また当該道路は環状道路であり市街地縁辺部に位置し、市街化調整区域でありかつ人口集中地区（DID）外ということからも多くの需要は見込めないと考えている。よって自転車歩行者の物理的な分離は困難と考えている。 ○地下道について、建設コストやLCC等を考慮すると物理的な分離は難しい。しかし時代のニーズや安全性向上という観点から、自転車歩行者の走行区分の明確化（視覚分離等）について、実際の利用状況やネットワークを勘案して対応していきたい。 ○当該道路の現状は歩道のない踏切となっている。今回、地形的制約の中で幅員3.0mの両側歩道を計画しており、一定の水準は満たしていると考えている。今後、近隣踏切</p>	

○現在、自転車について様々な課題がある中で、中心市街地ではレーン分け等限られた空間の中で対応している。そのあたりを考慮して、例えば自転車を一方通行にするとか、ハードで対応できない部分はソフトで対応してもらいたい。

2. 縦断勾配

○5%・8%の縦断勾配について、基準はクリアしているかもしれないが、現実的に車いす等は通行困難である。全体を上げて勾配をゆるくすることはできないか？

3. その他

○今後、少子高齢化社会において自動車交通量は将来減るのではないか？

○この区間だけ出来ても渋滞は解消しないのではないか？

○地下道部分は暗いため、防犯上の対応を考えて欲しい。

○段差について、市内はほとんど2cmになっている。車椅子の通行を考慮して欲しい。

○転落防止柵は全線設置するのか？

の歩道設置を含めた周辺道路の歩道設置を検討し、この地域について面的に安全性の向上を図っていきたい。

○今後の自転車施策と歩調を図りながら検討していきたい。

○当該道路は、平成8年に12%で計画されたものに対し、可能な限り緩い勾配に変更しているところである。在来線をアンダーで横断する構造であること、また新幹線下については橋脚基礎があること、接続可能な道路の位置等、地形的制約によりこれ以上縦断勾配を緩くすることは困難と考える。

○社会全体では自動車交通量は減る傾向にあるが、それを考慮した将来予測をした結果、この道路については30,000台/日の交通量を見込んでおり、この地域の渋滞解消を主目的としている。

○市では当該道路の西に続く区間においても事業着手に向けて検討している。

○検討する。

○検討する（1cm）。

○踊場も含めて地下道部分には連続的に設置する予定である。